

「外国人のためのタイ語教育」における初級文法の扱い

高橋清子

1. はじめに

筆者は平成 24 年度神田外語大学研究助成（在外研究）(No. 11, 2012) を受け、その上でタイ国家学術研究評議会 National Research Council of Thailand (NRCT) の許可 (No. 0002/6121) を受けて、平成 24 年 10 月から翌年 2 月までの 5 ヶ月間 (2012 年 10 月～2013 年 2 月)、タイ国立タマサート大学教養学部を受け入れ機関とする短期在外研究に従事した。¹ 本稿はその調査研究の成果の一部である。タイ国家学術研究評議会に提出した調査研究申請書 Research Proposal (2011 年 5 月提出) と調査研究概要報告書 Summary Report (2013 年 2 月提出) の一部を抜粋し加筆修正する形で、「外国人のためのタイ語教育」における初級文法の扱いについて報告する。

本稿では「外国人のための」、「外国語としてのタイ語」、「外国人学習者」などという言い回しを便宜的に用いるが、それらは正確な用語ではないことを初めに断っておく。正確には「非タイ語母語話者のための」、「非母語としてのタイ語」、「非タイ語母語話者学習者」などと言うべきである。多民族国家のタイでは、タイ国籍を有する（あるいは無国籍の）非タイ語母語話者がタイ語を学ぶことがある。それらの人々は外国人ではなく、それらの人々にとってタイ語は外国語ではない。さらに言えば、それらの人々にとってタイ語は第二言語どころか第三言語、第四言語、等々である場合もある。

¹ 研究題目は以下のとおりである：『タイ語基礎』I B・II B (1 年生文法クラス) の教科書開発のためのタイ語文法に関する基礎研究 Analysis of Thai grammar for developing a textbook of freshman grammar classes for Thai-major students in Japan。以下に挙げる機関および個人に対し、ここに謝意を表したい。本調査研究（短期在外研究）を許可した神田外語大学とタイ国家学術研究評議会；受け入れ機関のタマサート大学教養学部と同学部における指導研究者のタサニー・メーターピスイット氏 Associate Professor Tasanee Methapisit；公式訪問した 6 つの国立大学（カセサート大学、タマサート大学、チェンマイ大学、チュラロンコン大学、マヒドン大学、ナコーンパトム・ラーチャパット大学）で「外国人のためのタイ語教育」に携わり本調査研究に協力した教職員の方々 (cf. 第 2 節)；本調査研究を支援した河島久枝氏とアーリー・バンナー氏 Ms. Aree Banna；筆者の不在中に筆者の仕事を代わって引き受けた神田外語大学の教職員の方々（特に、ポーンスイー・ライト氏、重富スパポー氏、春日淳氏、串崎敦子氏、内野ナンティヤー氏、平田晶子氏）。

本論に入る前に、印欧語に顕著に見られる文法範疇や定形/不定形の区別といったことだけが文法ではない、言語によって文法のあり方は違う、という事実をここで確認しておきたい。筆者の考えでは、タイ語文法の根幹を成すのは、複数の言語単位から構成される構文の構成素の分類とその組み合わせパターンおよび構文間の関連性である。² 典型的孤立語であるタイ語には接辞がほとんどなく³、語は形態変化（接辞付加などによる屈折や派生）を起こさない。英語のように、単一の節に定形の本動詞は 1 つしか生起できず、その他の動詞は不定形（動詞の原型、to 不定詞、-ed/-ing 分詞）をとらなければならない、といった規則もタイ語にはない。「数（単数/複数など）、性（男性/女性など）、格（主格/対格など）」といった名詞類の文法範疇についても、「時制（過去/非過去など）、相（完了相/非完了相など）、法（直説法/接続法など）」といった動詞類の文法範疇についても、タイ語には体系的な表し分けの規則が存在しない。すなわちタイ語にはそのような文法範疇——規則的に表し分けなければならない機能的意味の体系——は存在しない。例えば、タイ語にもアスペクト標識があり、完了相/非完了相などの明示的な表し分けが可能ではあるが、そうしたタイ語のアスペクト標識によるアスペクトの表し分けはあくまでも任意であり、ロシア語などの文法範疇としてのアスペクトの表し分け（規則に則って表し分けなければ非文法的になってしまう）とは本質的に異なる。タイ語の動詞は、アスペクト標識による明示的な表し分けがなされていない場合、完了にも非完了にも解釈され得る。どのような構文の中でどのような構成素と組み合わせられて使われているのか（どのような統語環境で使われているのか）、あるいはどのような談話文脈で使われているのか、といったことがそうしたアスペクトの解釈を左右する。

² 今回の短期在外研究で実施した「外国人のためのタイ語教育」に関する文献調査やインタビュー調査では、このような構文文法の観点からタイ語文法を説明する教科書あるいは研究者には遭遇しなかった。しかし、併せて実施したタイ語文法全般に関する文献調査では、例えばアンチャリー・スィンノーイ氏 Dr. Unchalee Singnoi のように、構文文法の観点からタイ語文法を体系的に説明しようとする研究者がいることがわかった。

³ 単独では起こり得ない非現実性標識 ๓๓ などは接辞（拘束形態素）と見なし得るであろう。

2. 調査研究の概要

本調査研究の目的は、神田外語大学アジア言語学科タイ語/英語専攻（ダブルメジャー）1年生向けのタイ語文法クラスの教科書を開発することを目指し、そのための基礎的研究として、タイ国内における近年の「外国人のためのタイ語教育」およびタイ語文法研究の実態について詳しく調査することである。具体的な研究活動——(1) 文献調査、(2) 視察調査、(3) インタビュー調査——の内容は以下のとおりである。

(1) タイ国内で近年（2001年以降）出版された「外国人のためのタイ語教育」に関する研究書籍（モノグラフ、論文集）/学術論文と教材資料（主に教室で教師と学習者が使う教科書、主に学習者が独学用に使う語学書）およびタイ語文法に関する研究書籍（文法書、モノグラフ、論文集）/学術論文を多数収集し、その内容を精査した。

(2) 「外国人のためのタイ語教育」関連の課程（いわゆる「外国人向けタイ語プログラム」）を持つ国立大学のうち、6つの大学——①カセサート大学人文学部（バンコク都）、②タマサート大学教養学部（バンコク都）、③チェンマイ大学人文学部（チェンマイ県）、④チュラロンコーン大学文学部（バンコク都）、⑤マヒドン大学アジア言語文化研究所（ナコーンパトム県）、⑥ナコーンパトム・ラーチャパット大学人文社会科学部（ナコーンパトム県）——を公式訪問し、カリキュラムやその他の教育制度に関する情報を収集すると同時に、いくつかの初級クラスを視察した。

(3) 訪問した大学で「外国人のためのタイ語教育」に従事する専門家/研究者（下記の計14名の教員）に当該カリキュラムにおける初級タイ語文法の扱いやタイ語文法観についてインタビューした。

①カセサート大学人文学部タイ語学科「第二外国語としてのタイ語課程」“Thai as a Second Language (Communicative Thai Language for Foreigners) Program”, Department of Thai Language, Faculty of Humanities, Kasetsart University を担当する教員2名：

ルジラー・センネート氏 Lecturer Dr. Rujira Sengnet

高橋清子. 2014. 「外国人のためのタイ語教育」における初級文法の扱い『神田外語大学紀要』第 26 号, 465-488.
Takahashi, Kiyoko. 2014. On “Basic Thai Grammar” in the Teaching Thai as a Foreign Language. *The Journal of Kanda University of International Studies*, Vol.26, 465-488.

メーターウィー・ユッタポンターダー氏 Lecturer Dr. Methawee Yuttapongtada

②タマサート大学教養学部タイ語学科「外国人のための基礎タイ語課程」“Basic Thai for Foreigners Program”, Department of Thai Language, Faculty of Liberal Arts, Thammasat University を担当する教員 1 名 :

ヌアンティップ・プームケーソーン氏 Associate Professor Nuantip Permkesorn

③チェンマイ大学人文学部タイ語学科「外国語としてのタイ語課程」“Thai as a Foreign Language Program”, Department of Thai Language, Faculty of Humanities, Chiang Mai University を担当する教員 6 名 :

ジラット・ヒランラット氏 Lecturer Jirat Hiranras

アムピカー・ラタナピタック氏 Lecturer Amphika Ratanapitak

パンチーワー・ブットラート氏 Lecturer Panchewa Butraj

チャルーン・ペットラット氏 Lecturer Dr. Charoen Phetrat

ナンタリヤー・サーイアム氏 Associate Professor Dr. Nanthariya Sah-iam

ハタイワン・チャイヤクン氏 Associate Professor Hataiwan Chaiyakul

④チュラロンコーン大学文学部「短期集中タイ語課程」“Intensive Thai Program”, Faculty of Arts, Chulalongkorn University を担当する教員 1 名 :

スリヤー・スィーピロム氏 Lecturer Suriya Sriprom

⑤マヒドン大学アジア言語文化研究所「外国人のためのタイ語課程」“Thai for Foreigners Program”, Research Institute for Languages and Cultures of Asia, Mahidol University を担当する教員 1 名 :

スミットラー・スララットデーチャー氏 Lecturer Dr. Sumittra Suraratdecha

⑥ナコーンパトム・ラーチャパット大学人文社会科学部「タイ語課程」“Thai Language Program”, Faculty of Humanities and Social Science, Nakhon Pathom Rajabhat University を担当する教員 3 名 :

ワサモン・ピアンサムー氏 Lecturer Wasamone Peansamer

スイワポーン・コースィヤクン氏 Lecturer Siwaphorn Kosiyakul

ポンパン・チャントラワラーティット氏 former Associate Professor Pongpan Chantrawaratit

3. 現地での調査研究の結果

3.1 節では、収集した「外国人のためのタイ語教育」関連の文献一覧を示す。3.2 節では、収集した文献の内容を分析する。3.3 節では、視察した初級タイ語クラスの概要を紹介し、その内容を比較する。3.4 節では、訪問先の教員へのインタビュー内容を簡潔にまとめる。

3. 1. 「外国人のためのタイ語教育」関連の文献一覧

2001 年以降にタイ国内で出版された「外国人のためのタイ語教育」に関する主な文献——初級タイ語の教科書/語学書、調査報告書/ガイドブック、学术论文——は以下のとおりである（いずれも出版年が新しいものから古いものの順に並べられている）。なお、2001 年より前に出版された文献の一覧は、บุญเรือง ชื่นสุวิมล ๒๕๔๔ [Chunsuvimol 2001] (3.1.2 節の(9)) あるいは บุญเรือง ชื่นสุวิมล ๒๕๕๗ [Chunsuvimol 2010] (3.1.3 節の(3)) を参照されたい。

3. 1. 1. 外国人学習者向け初級タイ語の教科書/語学書

- (1) Thai Department, Faculty of Liberal Arts, Thammasat University (Archatewan, Pongpen, Rungroj Archatewan, and Rattana Phumipitak. (eds.)). 1st ed. 2011. *Intensive Listening-Speaking Thai for Foreigners [สนทนาภาษาไทย (ฉบับเร่งรัด)]*. Bangkok: Skybook. (124 pages, with CD)
- (2) Fujisaki, Phongphan and Laurisa Deacon. 1st ed. 2011. *Master Thai in 1 Night: The Simplest in the World! [เรียนคืนเดียวก็เก่งได้ภาษาไทย สำหรับคนพูดภาษาอังกฤษ]*. Bangkok: TLS Group. (152 pages, with CD)
- (3) 片桐, カノックワン L、富岡裕 [Katagiri, Kanokwan Laohaburanakit and Yutaka Tomioka]. 1st ed. 2011. *らくらくタイ語聴き取り練習帳 [Elementary Thai Listening Textbook for Japanese Students]*. Bangkok: Chulalongkorn University Printing House. (272 pages, with CD)

- (4) 菊川透 [Kikukawa, Tohru]. 1st ed. 2009. *オープンワード、タイ語入門講座 [Open Word, Introduction to Thai]*. Bangkok: Chulalongkorn University Printing House. (200 pages, with CD)
- (5) Charles, Richard. 1st ed. 2009/ 2nd ed. 2012. *Speak Thai, Volume 1*. See Sip Publications. (230 pages, with CD)
- (6) Charles, Richard. 1st ed. 2010/ 2nd ed. 2011. *Speak Thai, Volume 2*. See Sip Publications. (282 pages, with CD)
- (7) Mahidol University International College (Fouquet, Gérard, Anchalee Pongpun, Arpaporn Iemubol, and Nopporn Prachakul). 1st ed. 2008. *Sabai Sabai: An Elementary Thai Course Book*. Salaya, Nakhonpathom: Mahidol University International Collage. (311 pages, with web-based audio resources)
- (8) บันช็อนมานี, บุษบา บรจจมนิ, วัลนา วุฒิจำนงค์, วิไล โคมรกุล, และ ฮิเดโอะ มารุยามะ. พิมพ์ครั้งที่ ๑, ๒๕๕๑ [1st ed. 2008]. *場面で役立つ使えるタイ語 1 & 2 [พูด(ภาษา)ไทยให้เก่ง ๑ / ๒]*. กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม. (280 pages, with CD)
- (9) Kesawatana-Dohrs, Wimorn. 1st ed. 2007. *Everyday Thai for Beginners*. Chiang Mai: Silkworm books. (258 pages, with CD)
- (10) Luanwarawat, Rungrat. 1st ed. 2007. *Progressive Thai*. Bangkok: Orchid Press. (168 pages, with CD)
- (11) Kaweworawut, Chidpong (editor) and Wimuttikosol, Sutida (writer). 1st ed. 2007. *Shortcut for Speaking Thai*. Bangkok: MIS Publishing. (119 pages, with CD)
- (12) Sakurai, Michito. 1st ed. 2006/ 5th ed. 2011. *話せなければ意味がない: 使えるタイ語、初級編 [แบบเรียนสนทนาภาษาไทย]*. Bangkok: Westell. (274 pages, with CD)
- (13) Kanchanawan, Nitaya and Matthew J. Eynon. 1st ed. 2003/ 2nd ed. 2005. *Leaning Thai: A Unique and Practical Approach, 2nd edition*. Bangkok: Odeon Store. (230 pages)
- (14) สมพงษ์ วิทยศักดิ์พันธุ์, ธีรพร นิลประภัสสร, เขวลักษณ์ กระแสร์สินธุ์, และ อมพร แก้วสุวรรณ [Withayasakphan, Somphong et al.]. พิมพ์ครั้งที่ ๑, ๒๕๔๕ [1st ed. 2002]. *แบบเรียนภาษาไทยเบื้องต้นในบริบทไทยศึกษาสำหรับชาวต่างชาติ. โครงการพัฒนาความร่วมมือด้านการเรียนการสอนภาษาไทยบนฐานของไทยคดีศึกษา ทบวงมหาวิทยาลัย*. (288 pages)
- (15) Giovanoli, Sandro, Prisna Taatloha and Srinantha Silapasawat. 1st ed. 2002. *Basic Thai: An Introduction to Speaking, Writing and Reading*. Bangkok: Duang Kamol. (274 pages)

3. 1. 2. 「外国人のためのタイ語教育」に関する調査報告書/ガイドブック

- (1) ศรีวิลไล พลมณี [Ponmanee, Sriwilai]. ๒๕๕๒ [2009]. *การออกแบบชุดฝึกอบรมครูสอนภาษาไทยสำหรับผู้เรียนที่พูดภาษาอื่น [Training Package Design for Thai Language Teacher to Teach Non-Thai Speakers]*. คณะศึกษาศาสตร์ มหาวิทยาลัยเชียงใหม่. (168 pages)
- (2) ปรีชา หิรัญประดิษฐ์ [Hiranpradit, Preeya]. ๒๕๔๘ [2005]. การเรียนและการสอนภาษาไทยให้แก่ชาวต่างประเทศในประเทศไทย. (19 pages) ใน ปรีชา หิรัญประดิษฐ์. พิมพ์ครั้งที่ ๑, ๒๕๔๘ [1st ed. 2005]. *พินิจการสอนภาษา พิจารณาวรรณกรรม*, 7-25. ปากเกร็ด, นนทบุรี: โรงพิมพ์มหาวิทยาลัยสุโขทัยธรรมิกราช.
- (3) ปรีชา หิรัญประดิษฐ์ [Hiranpradit, Preeya]. ๒๕๔๘ [2005]. หนังสือสอนภาษาไทยให้แก่นักท่องเที่ยว: ผู้ช่วยครูที่มีประโยชน์. (18 pages) ใน ปรีชา หิรัญประดิษฐ์. พิมพ์ครั้งที่ ๑, ๒๕๔๘ [1st ed. 2005]. *พินิจการสอนภาษา พิจารณาวรรณกรรม*, 26-43. ปากเกร็ด, นนทบุรี: โรงพิมพ์มหาวิทยาลัยสุโขทัยธรรมิกราช.
- (4) สร้อยสน สกตรักษ์ [Sakolrak, Soison]. ๒๕๔๘ [2005]. *เอกสารประกอบการสอนรายวิชา 2719388 การสอนภาษาไทยเป็นภาษาต่างประเทศ [Teaching Thai as a Foreign Language]*. คณะครุศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย. (86 pages)
- (5) ศรีวิลไล พลมณี [Ponmanee, Sriwilai]. พิมพ์ครั้งที่ ๑, ๒๕๔๕ [1st ed. 2002]. *พื้นฐานการสอนภาษาไทยในฐานะภาษาต่างประเทศ [Foundations of teaching Thai as a Foreign Language]*. กรุงเทพฯ: ศูนย์หนังสือจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย. (273 pages)
- (6) ปรีชา หิรัญประดิษฐ์ [Hiranpradit, Preeya]. ๒๕๔๕ [2002]. *สถานภาพการเรียนและการสอนภาษาไทยให้แก่ชาวต่างประเทศในประเทศไทย [Status of Learning and Teaching the Thai Language for Foreigners in Thailand]*. สาขาวิชาศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยสุโขทัยธรรมิกราช. (128 pages)
- (7) สมพงษ์ วิทยศักดิ์พันธุ์ [Withayasakphan, Somphong]. พิมพ์ครั้งที่ ๑, ๒๕๔๕ [1st ed. 2002]. *คู่มือการสอนภาษาไทยเบื้องต้นในบริบทไทยศึกษาสำหรับชาวต่างชาติ*. โครงการพัฒนาความร่วมมือด้านการเรียนการสอนภาษาไทยบนฐานของไทยคดีศึกษา ทบวงมหาวิทยาลัย. (177 pages)
- (8) อากรณี แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เลหาะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies]*. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย. (293 pages)
- (9) บุญเรือง ชื่นสุวิมล [Chunsuvimol, Boonruang]. ๒๕๔๔ [2001]. *สถานภาพหนังสือสอนภาษาไทยสำหรับชาวต่างประเทศ*. ภาควิชาภาษาศาสตร์ คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์. (75 pages)

3. 1. 3. 「外国人のためのタイ語教育」に関する学術論文

- (1) วิชาติ บูรณะประเสริฐสุข [Booranaprasertsook, Wichat]. ๒๕๕๕ [2012]. ระบบคำภาษาไทยในคลังคำในใจของผู้เรียนภาษาไทยเป็นภาษาที่สอง: ศึกษากรณีนักศึกษาลาวและนักศึกษาเกาหลี [The Thai lexical system of 2nd language learners: A case study of Laotian and Korean students]. *วารสารอักษรศาสตร์ [Journal of Letters]* 41(1), 123-150.
- (2) ชลธิชา บำรุงรักษ์ [Bamroongrak, Cholticha]. ๒๕๕๔ [2011]. ภาษาไทยในฐานะภาษาที่สอง: การเรียนภาษาเชิงปฏิสัมพันธ์ในบริบทไทย [Thai as a second language: Interactive learning in Thai context]. *วารสารภาษาและภาษาศาสตร์ [Language and Linguistics]* 29(2), 27-45.
- (3) บุญเรือง ชื่นสุวิมล [Chunsuvimol, Boonruang]. ๒๕๕๔ [2011]. วรรณยุกต์มีการแทนเสียงอย่างไรในหนังสือสอนภาษาไทยสำหรับชาวต่างประเทศ [How are tones represented in Thai language teaching books for foreigners?]. *วารสารภาษาและภาษาศาสตร์ [Language and Linguistics]* 29(2), 46-60.
- (4) สุรีย์วรรณ เสถียรสุคนธ์ [Sathiansukon, Sureewan]. ๒๕๕๔ [2011]. การสอนภาษาไทยให้แก่ นักศึกษาชาวจีน: สภาพปัญหาและแนวทางแก้ไข [Teaching Thai to Chinese students: Condition, problems and solutions]. *วารสารมนุษยศาสตร์ [Humanities Journal]* 18(1), 127-140.
- (5) บุญเรือง ชื่นสุวิมล [Chunsuvimol, Boonruang]. ๒๕๕๓ [2010]. หนังสือสอนภาษาไทยสำหรับชาวต่างประเทศเขียนขึ้นด้วยวัตถุประสงค์ใด [What are the purposes of Thai language teaching books for non-Thai speakers?]. *วารสารภาษาและภาษาศาสตร์ [Language and Linguistics]* 29(1), 56-77.
- (6) รุ่งฤดี แผลงสร [Plangsorn, Rungrudee]. ๒๕๔๕ [2006]. การสอนทักษะการฟังภาษาไทยสำหรับผู้เรียนชาวต่างประเทศ. *วารสารมนุษยศาสตร์ปริทรรศน์ [Manusat Paritat: Journal of Humanities]* 28(2), 51-69.
- (7) วิรัช วงศ์กิ้นันท์วัฒนา [Wongpinanwatana, Wirat]. ๒๕๔๘ [2005]. ภาษาไทยสำหรับชาวต่างประเทศ: การเรียนรู้ตามสภาพจริง. *วารสารมนุษยศาสตร์สังคมศาสตร์ [Humanities & Social Sciences]* 23(1), 1-17.
- (8) Yiyuan, Luo. ๒๕๔๗ [2004]. เทคนิคในการสอนภาษาไทยขั้นพื้นฐานให้กับนักศึกษาจีน. *วารสารมนุษยศาสตร์ปริทรรศน์ [Manusat Paritat: Journal of Humanities]* 26(1), 69-74.
- (9) สมพงษ์ วิทยศักดิ์พันธุ์ [Withayasakphan, Somphong]. ๒๕๔๕ [2002]. การจัดกิจกรรมการเรียนรู้ภาษาไทยแก่ชาวต่างประเทศ. ใน สมพงษ์ วิทยศักดิ์พันธุ์ [Withayasakphan, Somphong]. พิมพ์ครั้งที่ ๑, ๒๕๔๕ [1st ed. 2002]. *คู่มือการสอนภาษาไทยเบื้องต้นในบริบทไทยศึกษาสำหรับชาวต่างชาติ*, 162-176. โครงการพัฒนาความร่วมมือด้านการเรียนการสอนภาษาไทยบนฐานของไทยคดีศึกษา ทบวงมหาวิทยาลัย.
- (10) ศรีวิไล พลมณี [Ponmanee, Sriwilai]. ๒๕๔๔ [2001]. สรุปผลงานของกลุ่มปฏิบัติการกลุ่มที่ ๑. ใน อากรณี แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เล่าหะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on*

- Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies*], 68-79. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (11)สมพงษ์ วิทยศักดิ์พันธุ์ [Withayasakphan, Somphong]. ๒๕๔๔ [2001]. สรุปผลงานของกลุ่มปฏิบัติการกลุ่มที่ ๒. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เล่าหะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [*Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies*], 80-89. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (12)ลักขณา ดาจารย์ [Daoratanahong, Lakana]. ๒๕๔๔ [2001]. สรุปผลงานของกลุ่มปฏิบัติการกลุ่มที่ ๓. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เล่าหะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [*Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies*], 90-91. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (13)ศุภชัย แสงปัญญา [Saengpanya, Supachai]. ๒๕๔๔ [2001]. สรุปผลงานของกลุ่มปฏิบัติการกลุ่มที่ ๔. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เล่าหะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [*Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies*], 92-97. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (14)อุไมยะห์ ดามันฮูรี [Damanhuri, Umayah]. ๒๕๔๔ [2001]. การแนะนำลักษณะที่สำคัญของภาษาไทยเพื่อช่วยให้นักเรียนการสอนง่ายขึ้น. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เล่าหะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [*Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies*], 98-108. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (15)ศรีวิไล พลมณี [Ponmanee, Sriwilai]. ๒๕๔๔ [2001]. ความคิดเห็นและความต้องการของชาวต่างประเทศต่อการเรียนภาษาไทย. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เล่าหะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [*Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies*], 109-112. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (16)ฟู เจิงโฮ่ว [Fu, Zeng You]. ๒๕๔๔ [2001]. กิจกรรมนอกเวลาเรียนกับการเรียนการสอนภาษาไทย. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เล่าหะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [*Regional Seminar on*

- Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies*], 113-116. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (17)สมปอง ศรีวิชัย [Sriwichai, Sompong]. ๒๕๔๔ [2001]. การพัฒนาหลักสูตรภาษาไทยเบื้องต้นสำหรับนักศึกษาต่างประเทศ [The development of basic Thai language curriculum for international students attending Payap University]. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เลหาะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies]*, 117-118. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (18)สมพงศ์ วิทยศักดิ์พันธุ์ [Withayasakphan, Somphong]. ๒๕๔๔ [2001]. การสอนภาษาไทยเบื้องต้นให้ชาวต่างชาติ. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เลหาะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies]*, 119-132. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (19)จินตนา แซนดิแลนด์ซ [Sandilands, Chintana]. ๒๕๔๔ [2001]. การจัดการเรียนการสอนภาษาไทยให้แก่ชาวต่างชาติ: มุมมองจากออสเตรเลีย. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เลหาะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies]*, 133-151. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (20)Choi, Chang Sung. ๒๕๔๔ [2001]. ความสำเร็จในการสอนภาษาไทยในเกาหลี. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เลหาะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies]*, 152-166. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (21)Choi, Chang Sung. ๒๕๔๔ [2001]. ทิศทางการพัฒนาความเป็นเลิศในการสอนภาษาไทยสำหรับชาวต่างประเทศในประเทศไทย. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เลหาะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies]*, 167-176. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (22)นฤมล ลี้ยะชาติ [Leepiyachart, Narumol]. ๒๕๔๔ [2001]. วิเคราะห์และเปรียบเทียบภาษา. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เลหาะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on*

Teaching and Learning Thai Language in the Context of Thai Studies], 177-183. กองวิเทศสัมพันธ์
สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.

- (23) ซิติ อาเซียห์ กาญจน บินดี อับดุลลาห์ [Siti Asiah Kancana Binti Abdullah]. ๒๕๔๔ [2001]. ประสบการณ์ปัญหา
จากการเรียนและการสอนภาษาไทยที่มหาวิทยาลัยมลายาประเทศมาเลเซีย. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เลหาะเทียนสินธุ์
(บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับ
ภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on Teaching and Learning
Thai Language in the Context of Thai Studies]*, 184-188. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (24) อรสา ออวัง [Awang, Orasa]. ๒๕๔๔ [2001]. การเรียนการสอนภาษาไทย ณ มหาวิทยาลัยไซนส์มาเลเซีย (Universiti
Sains Malaysia). ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เลหาะเทียนสินธุ์ (บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and
Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยใน
บริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on Teaching and Learning Thai Language in the Context of
Thai Studies]*, 189-197. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.
- (25) Ghafur, Zahrah Abd. ๒๕๔๔ [2001]. Foreign language learning for linguistics students in the
school of Humanities at University of Science Malaysia. ใน อภรณ์ แก่นวงศ์ และ เอกพงษ์ เลหาะเทียนสินธุ์
(บรรณาธิการ) [Kanvong, Aporn and Ekaphong Lauhathiansind (eds.)]. ๒๕๔๔ [2001]. *การสัมมนาระดับ
ภูมิภาคว่าด้วยการเรียนการสอนภาษาไทยในบริบทไทยศึกษา [Regional Seminar on Teaching and Learning
Thai Language in the Context of Thai Studies]*, 198-201. กองวิเทศสัมพันธ์ สำนักงานปลัดทบวงมหาวิทยาลัย.

3. 2. 収集した文献の内容分析

3.1.1 節に列挙した教科書/語学書には、タイ語文法の基礎を初級レベルの外国人学習者に
理解させることを第一の目的として執筆されたものはなかった。単にタイ語を外国語に翻
訳しただけのものを除き、その多くは、各課で学習する会話文に含まれている文法項目（文
法語や文法構文の使い方）を適宜取り上げて説明を加えている。しかし体系的な説明が尽
くされているとは言い難い。唯一の例外はマヒドン大学国際カレッジの留学生のために開
発された初学者向け教科書『*Sabai Sabai: An Elementary Thai Course Book*』(Mahidol University
International College, 2008) (3.1.1 節の(7)) で、この教科書の後半部はタイ語文法の概略説明
に多くの頁が費やされている。しかしいずれにせよ昨今の外国語教授法の主流は（フォー
カス・オン・フォーム・アプローチ Focus on Form Approach も含め）コミュニカティブ・ア

アプローチ **Communicative Approach** であり、上記の教科書/語学書も、そのすべてが日常の話し言葉のコミュニケーション技能の向上を主たる目的としてデザインされている。具体的には、日常生活の中の短い会話文を本文とする 6 から 54 の課から成る。簡単な会話文を話したり聴いたりする練習（と簡単な読み書きの練習）に重きが置かれ、基本的な文法知識を体系的に学習し習得させることには重きが置かれていない。

コミュニケーション・アプローチに沿った外国語教育の初級レベルでは、書き言葉はあまり取り上げられない。書き言葉は話し言葉に比べてより複雑であり、日常生活における有用性も低いと考えられているからである。上記の教科書/語学書でも、例文は話し言葉から採られ、書き言葉への言及はない。対話や会話などの話し言葉で使われる表現と報告文書や文学作品などの書き言葉で使われる表現には特徴的な違いがあること（タイ語の書き言葉では、代名詞、前置詞、節接続詞などの機能語が多用されることなど）も説明されていない。

上記の(授業で使うために開発された)教科書には、『แบบเรียนภาษาไทยเบื้องต้นในบริบทไทยศึกษาสำหรับชาวต่างชาติ』(สมพงษ์ วิทยศักดิ์พันธุ์ และคณะ ๒๕๔๕ [Withayasakphan et al. 2002]) (3.1.1 節の(14)) を除き、付属の学習指導書がない。さらに、教科書『แบบเรียนภาษาไทยเบื้องต้นในบริบทไทยศึกษาสำหรับชาวต่างชาติ』付属の学習指導書『คู่มือการสอนภาษาไทยเบื้องต้นในบริบทไทยศึกษาสำหรับชาวต่างชาติ』(สมพงษ์ วิทยศักดิ์พันธุ์ ๒๕๔๕ [Withayasakphan 2002]) (3.1.2 節の(7)) にも体系的な文法説明はない。したがって、それらの教科書を使う教師は、学習者の理解力や学習背景などを考慮しながら、各課の文法項目について自ら工夫して説明する能力が求められる。

3.1.2 節と 3.1.3 節に列挙した調査報告書/ガイドブックと学術論文を精査したところ、「外国人のためのタイ語教育」の専門家は、伝統的な教師中心の教授法である「文法翻訳法 ‘grammar-translation’ method」を時代遅れと見なし、近代的な学習者志向の教授法である「コミュニケーション法 ‘communication’ method」が外国語教育には有効であると考えていることが確認できた。

今回の調査研究では、最近のタイ語文法研究に関する出版物も収集してその内容を精査した。その結果、タイ語母語話者の言語学研究者によってタイ語の文法体系の諸相（例えば、タイ語の語類、アスペクト標識、モダリティ標識、複合語、類別詞構文、連体修飾構文、動詞連続構文、受動構文など）が新たな視点で合理的に分析されていることがわかったが、残念ながらそうした最近のタイ語文法研究の素晴らしい研究成果は未だ外国人学習者向けの初級タイ語の教科書/語学書に反映されていない。外国人学習者向け初級タイ語の教科書/語学書の著者は同時代のタイ語文法研究に疎いようである。

3. 3. 視察した初級タイ語クラスの内容比較

筆者は平成24年(2012年)11月から12月にかけて外国人向けタイ語プログラムを持つ6つの国立大学を公式訪問したが、その際、3つの大学で実施されている授業の一部——下記の5つの初級クラス——を視察した。

①チェンマイ大学人文学部「外国語としてのタイ語課程」のハタイワン・チャイヤクン氏担当の2クラス(1クラスは中国人学生、もう1クラスはミャンマー人学生)。

②チェンマイ大学人文学部「外国語としてのタイ語課程」のジラット・ヒランラット氏担当の1クラス(中国の提携大学の学生)。

③チュラロンコーン大学文学部「短期集中タイ語課程」のスリヤー・スィーピロム氏担当の1クラス(中国人、米国人、日本人、韓国人、スウェーデン人、ベルギー人、英国人)。

④ナコーンパトム・ラーチャパット大学人文社会科学部「タイ語課程」のポンパン・チャントラワラーティット氏担当の1クラス(中国の提携大学の学生)。

これらの授業は、短期集中型(③)と通常 Semester 型(①、②、④)に大きく分かれる。短期集中型のチュラロンコーン大学文学部「短期集中タイ語課程」の1クラスを除き、これらの初級クラスの学習者はその大部分が中国人学生かミャンマー人学生かのどちらかであった。したがってクラスごとの学習者の文化背景は比較的均一であることが多いよう

に見受けられた。タイ語のみを使用して授業を行う教師もいれば、タイ語の他、英語を使用する教師もいた。中国人学習者が多いクラスでは、学習する語彙や表現の中国語訳を示す場合もあった。

これらの初級クラスでは、使用している教科書に詳しい文法説明がないこともあり、教師ごとに異なる様々な形で文法事項が取り扱われていた。学生の質問に応じて文法事項を説明する教師もいれば、周到に準備した具体例を挙げて文法事項を説明する教師もいた。さらに、授業での明示的な文法説明は必要ないと考える教師もいた。外国人学習者向け初級クラスの教師の仕事は、多くの有用なタイ語表現のサンプルを提示して、それらサンプル表現の基底を成す統語パターンや文法規則を学習者自らが発見するように促すことである、というのがそうした教師の考えであった。

3. 4. 教員インタビューの内容要旨

筆者は 6 つの大学を訪問した際に、外国人向けタイ語プログラムの授業を担当するタイ人教員（第 2 節に所属と名前を挙げた計 14 名）にインタビューし、各プログラムのカリキュラムや初級タイ語文法の扱いについて、それぞれ貴重な情報を得るとともに、各人のタイ語文法観について多様な意見を拝聴した。

筆者が訪問した大学の外国人向けタイ語プログラムはどこもほぼ同じ目標を掲げていた。すなわち、外国人学習者にタイ語を教え、効果的なタイ語のコミュニケーション技能を習得させ、タイ社会において学術的あるいは職業的な活動を遂行し得るようにさせること、を目標にしている。

筆者がインタビューしたタイ人教員の学術面の出身分野は様々である。あるものは言語学を専門とし、あるものはタイ文学を専門としている。そして多くが外国語を学んだ経験を持っている。

純粋に文法事項だけを扱う文法クラスを初級レベルで開講しているプログラムはなかつ

た。多くは、スピーキングとリスニング中心のクラスで文法事項が導入されていた。教科書の各課で取り上げられたサンプル談話（あるいはクラス内での学生の発話や質問）の内容に応じて、教師は関連する文法事項を適宜説明する。具体的には、①文の発話行為の基本タイプ、②基本語順、③名詞句構造、④代名詞体系、⑤呼称詞体系、⑥指示詞体系、⑦方向動詞体系、⑧空間表現、⑨時間表現、⑩類別詞、⑪アスペクト標識、⑫モダリティ標識、⑬末尾辞、などの文法事項が取り上げられ説明されていた。

初級レベルの外国人学習者にタイ語文法を説明しても、具体的な文法事項が関わる実際のタイ語表現に慣れていない学習者にとって理解は困難であろう、と考える教師もいた。そう危惧する教師は、実際のタイ語表現に慣れていない初級学習者を対象とする文法教育に特化した文法クラスの設置には賛同しない。

以下のような意見を述べる教師も少なからずいた。初級レベルで文法クラスを設けることは一般的ではない。なぜなら初学者がいくら文法知識を身につけても発話の流暢さの向上にはさほど役立たないからだ。しかし正確なコミュニケーションのためには文法知識が欠かせない。したがって文法クラスは中級レベルあるいは上級レベルに設置するのが望ましい。

初級クラスでは細かい文法事項にはこだわらず、むしろタイ語の談話の全般的特徴（音声や情報構造についての特徴）を体得させることに重きを置くべきであるという意見もあった。言い換えれば、初級クラスの学習者は教師のタイ語の発話を完全に理解する必要はない、ということである。つまり、まずはタイ語の談話に慣れさせなければ意味がない、慣れれば次第に聴解度も増していくのであるから、それを待てばよい、というスタンスである。

「外国人のためのタイ語教育」に携わるタイ語教師はタイ語と外国語との対照研究に励むべきだ、知っている外国語の数は多ければ多いほどよい、と強調する教師もいた。タイ語と諸外国語との間にはどのような異同があるのかを知っていれば、より効率的な「外国

人のためのタイ語教育」を实践できるからである。

「外国人のためのタイ語教育」に携わるタイ語教師の要件を問うと、以下のものが挙げられた。①好奇心、忍耐力、親切心、熱心さ、等々を備えた優れた人格、②タイ語に関する十全な知識、③外国語に関する適度な知識、④学習者の興味を引き、学習者に適切な練習課題を与え、学習者を理解させるに足る教育学および心理学の知識と技能、⑤歌唱や演劇などの芸能面の知識や諸々の活動を企画し実施する能力、⑥学術的探究心。多くの人が「優れた人格」をタイ語教師の要件に挙げていたことが印象的であった。

タイ語の基本的文法事項は何か、という質問には多様な答えが返ってきた。しかし多くの人は以下のものをタイ語の基本的文法事項と見なしていた。①音韻体系、②語形成の仕組み(複合語の成り立ち)、③名詞句の構造、④節の構造、⑤複文の構造(節連接の仕組み)、⑥アスペクト表現、⑦モダリティ表現。これらの他、以下のものを追加する人もいた。⑧重複表現、⑨動詞を含まない名詞述語表現(「主題—評言」構造の一種)、⑩項名詞句を伴わない動詞述語表現、⑪動詞連続体、⑫ポライトネス表現(異なるレジスターの表現)、⑬末尾辞や談話標識などの語用論的不変化辞、⑭慣用表現。

4. まとめ

今回の調査研究から筆者は多くのことを学んだ。言うまでもなく、タイの大学で実施されているタイ語母語話者の教師による(多くの場合、英語を媒介とした)外国人のためのタイ語教育と、日本の大学で実施されているタイ語母語話者あるいは日本語母語話者の教師による(多くの場合、日本語を媒介とした)日本人のためのタイ語教育には、多くの違いがある。最も大きな違いは、タイで学べば、教室外での日々のタイ語運用の实践やタイ文化の体験が教室内でのタイ語学習を大いに補完するが、日本ではそれが無いことだ。しかし文法教育について言えば、外国人にどのようにタイ語の文法を教えるべきか、タイ語文法教育をどう体系化すべきか、初級で教えるべきタイ語文法とは何か、といった問題は、

タイであっても日本であっても、基本的に変わらない。

近年のタイ国内における「外国人のためのタイ語教育」の隆盛については、平成 24 年 (2012 年) 10 月に短期在外研究に出発する前から多少聞き及んでいたものの、その実態はよくわからなかった。しかし実際に現地で専門家の方々にインタビューをし、またいくつかの授業も視察して、「外国人のためのタイ語教育」は今まさにブームであることを実感した。特に中国からタイの大学へ留学する学生数の増加には目を見張るものがある。筆者がタイの大学院に在籍していた頃 (およそ 21 年前～13 年前) には、タイの大学で中国人留学生の姿を見かけることはまれであった。今回筆者が訪問した大学だけでなく、その他の大学でも外国人向けタイ語プログラムが次々と発足しているが、それらのタイ語プログラムで学んでいる学習者の大多数は中国人である。中国の大学と提携した留学制度もすでに多くの大学に導入されており、その数は年々増加の一途である。例えば、ナコーンパトム・ラーチャパット大学人文社会科学部では、すでに 2 つの中国の大学と留学協定 (1 つの大学は 1 年間の留学協定、もう 1 つの大学は 2 年間の留学協定) を締結して留学生を受け入れているが、筆者が訪問する直前にも、新たな中国の大学と留学協定を結んだとのことである。同大学のキャンパスには中国人留学生用の寮が整備されている。

「外国人のためのタイ語教育」が盛んになればなるほど、それを支える外国語としてのタイ語の文法研究の深化が求められるのは必至である。今回訪問した大学の外国人向けタイ語プログラムには初級文法を扱うクラスが設置されていなかった。また、専門家へのインタビュー調査や文献調査から、おそらく他大学の外国人向けタイ語プログラムでも現在初級文法を扱うクラスを設置しているところはないであろうことが伺える。(初級レベルに限らず、純粹に文法に特化したクラスを開講しているプログラムは現在おそらくないであろう。) しかし近い将来、初級レベルから文法に特化したクラスを開講するところも出てくる可能性はある。タイ語を学ぶ中国人留学生は今後も増加することが予想され、タイ語文法と中国語文法の対照研究がこれから盛んになるであろうと考えられるからだ。その対照

研究の成果が徐々に中国人学習者向けのタイ語教育に活かされていき、延いては、初級文法、中級文法、上級文法といったタイ語文法教育全体の体系化にもつながっていくことが期待される。

数年前からチュラロンコーン大学スイリントーン王女タイ語研究所 Sirindhorn Thai Language Institute, Chulalongkorn University が国内外のタイ語教育の専門家を集めてチームを作り、欧州言語共通参照枠 Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) を参考に、数種類のタイ語能力試験を開発している。⁴ その中には、チュラロンコーン大学の学生（タイ語母語話者の学生と非タイ語母語話者の学生）向けのタイ語能力試験の他、一般の外国人向けのタイ語能力試験も含まれている。同研究所が開発した外国人学習者のためのタイ語能力試験（読解/聴解試験）は現在、タイ国内の他、中国や日本でも実施されている。⁵ しかしながらタイ国内には未だ言語学会もタイ語教育学会も存在しない。言語学者によるタイ語研究とタイ語教師によるタイ語教育の実践を広く結びつけるものが何もない状態である。タイ語をどう外国人に教えるべきかという問題に取り組む関係者（タイ語研究者および現場のタイ語教師）の知恵を共有し改善に向けて議論していくこと——すなわち、多くの関係者から協力を得てタイ語教育を体系化していくこと——が難しい状況にある。タイ語教育の体系化のために多くの関係者が参加して議論を重ねていける場がないのである。現在の「外国人のためのタイ語教育」が解決すべき最大の課題はその点であろう。（日本における「日本語母語話者のためのタイ語教育」についても同様のことが言える。）

体系的な文法知識こそが正確な言語運用力の獲得を保証する唯一のものであることは疑いの余地がない。大学レベルの外国語教育の核は文法教育である。母語の文法体系を既に身に付けている者がその体系とは異なる体系を持つ言語を学習し、習得を目指すとき、学

⁴ スイリントーン王女タイ語研究所は2012年に「マイナー言語の能力試験に関する国際会議 International Conference on Language Proficiency Testing in Less Commonly Taught Languages, August 17-18, 2012, Bangkok」を主催した。このように同研究所はここ数年にわたってタイ語能力試験の開発に力を入れている。

⁵ 日本では、神田外語大学アジア言語学科のポーンスィー・ライト氏 Associate Professor Pornsri Wright が世話人となり、神田外語学院にて2012年から同能力試験が実施されている。

習言語の文法体系をいかに合理的かつ体系的に理解できるかが習得の成否の鍵を握る。合理的かつ体系的な理解は記憶の定着を助け、学習効率を高める。母語話者は子供の時から言語使用によって母語の文法知識を（その社会で生きていくための知識全般と共に）自然に無意識のうちに身に付けていくが、非母語話者は意識的な学習によって非母語の学習言語を身に付けていくより他はない。大学レベルの語学教師に求められる教育技能とは、学習者が合理的かつ体系的に学習言語の文法を理解するよう促す教え方ができることである。教師が学習者の母語の文法体系と学習言語の文法体系を対照して分析することができ、両体系の類似点と相違点を学習者に理解させ納得させることができれば、旧来の教授法——すなわち教師による明示的な手解きと周到に準備した練習問題の提示——によって実践的かつ効果的に文法の基礎を教えることが可能であると筆者は信ずる。

今回インタビューした教員の多くが、タイ語表現を聞いた経験が少なくタイ語の運用能力が非常に低い初級レベルの外国人学習者にタイ語文法の説明をしても十分に理解されず逆に無用な混乱を来たしてしまう恐れがある、と指摘していた。しかし筆者の考えでは、それは教師の説明が合理性に欠ける場合、あるいはあまりにも複雑すぎる場合に限られる。教師が学習者に対して適切な——つまり、平易でわかりやすく、合理的かつ体系的な——文法説明を初期の段階から与えることができれば、その学習者のタイ語文法に対する合理的な理解も早い段階から促されることになり、無理のない文法知識の蓄積につながるはずである。結果として、その学習者のタイ語技能は長期にわたって安定して伸びることが期待される。以上のことから、タイ語の文法事項を説明する教科書は、外国人学習者のそれぞれの母語によって執筆され、タイ語とその母語の文法体系が対照的に記述されていることが望ましいと筆者は考える。

外国人学習者向けタイ語初級文法クラスでは、タイ語の基本構文（使用頻度の高い構文）を厳選して順序よく提示し、その意味機能を紹介し、構文構成素の種類と組み合わせパターンおよび構文間のつながりを分かり易く説明し、さらに理解（聴解/読解）と産出（発話/作

文) の練習を効率よく行うべきである、という筆者の基本的な考えは今回の短期在外研究を経ても変わっていない。タイ語の基本構文には以下のものが含まれると筆者は考える。指示詞構文；類別詞構文；(位置表現や存在表現や出現/消失表現などを含む) 単純な動詞述語構文；名詞述語構文；(関係節構文などを含む) 連体修飾節構文；名詞補語節構文；動詞補語節構文；(動詞句 2 つから成る) 基本動詞連続構文；(自律移動表現や使役移動表現などを含む) 複雑な動詞述語構文/動詞連続構文；(等位節接続標識や副詞節接続標識を含む) 節接続構文；(受け身表現や分析的使役表現や恩恵表現などを含む) 態に関わる構文；(アスペクト標識やモダリティ標識や待遇標識などを含む) 主観性および間主観性/発話行為に関わる構文。これまで筆者はこれらの構文の特徴について、あるいはこれらの構文間の関係性について記述してきた。⁶ 初級文法クラスの教科書執筆に向け、今後は(理想的には大規模コーパスを用いて) これらの基本構文の具体例を多数収集し、その構成素の典型的成員(使用頻度の高いトークン)の同定と、組み合わせられる構成素の範囲(生起可能なタイプ)の一般化を追求したい。典型例を提示して集中的に練習することで基礎力を養い、さらに変種例(バリエーション)や関連表現についても言及することで文法体系の理解を促進し応用力も身に付ける、といったこれまでにない内容の教科書を作成できればよいと思う。

⁶ これまで筆者が執筆したタイ語文法に関する論考の多くは、筆者の個人 HP <<http://www.kuis.ac.jp/~kiyoko/>>からダウンロードできる。